

学力調査等の状況	
<p><国語>平均正答率は72%で都と比較しても6.4%上回っていた。しかし、全国的に正答率が低い書くことに関する記述式の問題は本校でも正答率が35.3%と低く、無回答が12.7%もいた。</p> <p><算数>平均正答率は先刻より4.8%上回り、都と比較しても1%上回っていた。しかし、全国的に正答率が低い割合の意味を問う問題は本校でも正答率が23.5%と低かった。</p>	

見えてきた課題	
<p><国語>文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見つける力が低い。各単元ごとに自分の考えや感想を、まずは書くようにし、書いたことを友達と伝え合い話し合う時間を取ることで、友達や自分の良いところを見付ける活動を行い、力をつけさせていく。</p> <p><算数>割合の意味など算数で使う言葉の理解が浅く、本質を問うような問題に対し、題意を正確に把握できていない。単元指導の初期に具体的な例を使いながら、基礎基本となる用語の意味を正確に理解させていく。</p>	

授業をデザインする8つの取組について	
発問の工夫	見通しをもたせる導入を含め、主体的な学びにつながる発問を工夫する。
ICT機器の活用	G-suiteのスプレッドシート、スライド、ジャムボードやnavimaの情報共有機能を使い、児童の協同的活動や考えを共有する活動に日常的に取り組む。
認め合う・学び合う集団の形成	拍手や賛成のハンドサイン、g-suiteやnavimaのコメント機能等を使ってお互いの考えを認め合ったり広げたり、深めたりする対話的な学びの場を工夫したりする。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の習得。 自分の考えをもち、表現する(書く・話す)ことを通して他と交流し自分と違う考えや意見を知り(読む、聞く)、考えを広げたり深めたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉遊びや音読を授業内にできるだけ設定する。また、家庭学習も活用しながら行う。 話し方や聴き方のモデルを示し、自分の考えを表現できるようにする。 自分の考えを書き、伝え合う活動の機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や言葉の習得時に意味を調べたり熟語を作ったり文章作りをしたりする。(語彙を増やす活動) 自分の考えや思いを書いたり、話したりする活動を設定し、互いの書いたものを読み合ったり、話しを聞いて感じたことを伝え合ったりする活動を、計画的、継続的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語辞典や漢和辞典などを使って、語彙力を増やしたり、言葉の意味を調べて表現する機会を増やしていく。 根拠や理由を明確にししながら自分の考えをもち、自他の立場を明確にして話し合い活動ができるようにする。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象への興味・関心をもてるための工夫をしていく。 資料を活用し、必要な情報をもとに自分の考えをもてるようにする。 自分で課題をもち、ノートや新聞にまとめる力をつける。 	<p>(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な人々や地域について自分との関わりを考えて活動できるように、子供の興味や関心から広げる学習活動を取り入れる。 学習活動の中で多様な考え方に触れるとともに、相手意識や目的意識を明らかにして意見の交流を行う場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の活用を授業で多く取り入れる。ICTや地図帳を効果的に用い、教室掲示を工夫することで、社会的事象への興味・関心ももてるようにしていく。 見学や地図などの資料で調べ、必要な情報を抜き出しながら、自分の考えをノートや新聞などにまとめる力を育てる機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞やインターネットによる情報を学習の資料として活用したり、必要な事柄を抜き出したりしながら、自分の考えをまとめる力を育てていく。 思考力を育てるために学習したことをまとめ、自分の考えをスピーチやスライドなどで発表する機会を増やしていく。 社会科見学の校外学習を通して実際の物を見聞きする体験から、学びを深めるようにする。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本となる学習内容の習得。主に ・十進位取りのシステムと10の合成分解 ・和・差・積・商の計算(筆算) ・コンパス・三角定規・分度器の使い方 ・数直線や表を使った立式や説明の技能 ・小数や分数の意味とその計算について、各学年でしっかり習得する。 ○図や表や式や言葉で自分の 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や授業開始の5分間などを活用して、読み上げ計算や10の合成分解が習得できるように年間を通して継続的に行う。2年生から算数のはげみ表(算数カルテ)を用いた苦手なところの補習、習熟をはかる。 ・家庭学習を活用しながら、たし算九九、引き算九九、かけ算九九の習得を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図るために、毎週火曜日の朝の算数タイムで、navimaを使って自分の苦手なところの習熟をはかっている。 ・家庭学習や朝自習の課題として、コンパスや分度器を使って作図したり測定したりする活動を定期的に設定し、技能の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜日の朝の算数タイムでは、ナビマを活用して、苦手なところの習熟を図り、授業の初めの時間で復習や補習を取り入れていく。 ・家庭学習や朝自習の課題として、コンパスや分度器を使って作図したり測定したりする活動を定期的に設定し、技能の向上を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本的な知識の習得 ・実験や観察後、話し合いの活動を通して、学習を深める。 ・主体的な活動を行うことができるような課題を設定し、日常生活や経験から見通しを持って実験や観察を行うようにする。 	<p>(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な生き物を育てる活動を通して、生き物への親しみをもつことができるように記録を行ったり、様子について友達と話したりする学習を行う。 ・身近な自然の事物や現象を利用したり、身近にある物を利用して楽しみながら遊びを作ることができる場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の物を見て観察したり、実際に動かしてみたり、試してみたりすることを通して、基礎、基本的な知識の習得を図る。また、1年間を通して継続して調べたり、前回と比べたりすることで、知識を深めていく。 ・話し合い活動を大切に、日常生活や経験から予想を立て、共有化する。また、見通しをもって実験や観察を行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に問題を設定し、解決に向けての実験や観察を行うことができるよう、身近な自然現象を知ったり体験したりする機会を設定する。 ・実験の結果から分かったことを話し合う時間を確保し、ICTの活用を含む対話等の活動を通して学んだことを深められるようにする。

⑬-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

のか				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> 身近な環境や自分自身に関心をもち、すすんでそれとかかわることができるようにする。 具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして表現できるようにする。 具体的な活動や体験によって、自分と身近な人、社会、自然とのかかわり及び自分自身の良さに気付けるようにする。・地域人材を有効に活用できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 金井小周辺の自然環境を生かす。(例 ゆうき山公園)身近な環境や自分自身に関心をもち、すすんでそれとかかわることができるようにする。 植物や動物の観察の観点、学校・町探検の見学の視点を明確にする。 めあてを明確にし、発表方法を工夫する活動を設定する。 自分と身近な人、社会、自然とのかかわり及び自分自身のよさに気付けるようにする。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本となる事項の習得 音楽的な見方・考え方を元に、表したい音楽表現をするための技能を身につけるようにする。 対話的な学習を通して、表現を工夫したり、音楽を味わって聴いたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな音楽に親しみながら、楽しんで音楽表現する中で、表現に対する思いをもち、技能が身に付けられるようにする。 体を動かしてリズムを感じる活動や、友達と一緒に歌ったり演奏したりする活動を通して、音楽に関心をもち、音楽表現の楽しさに気付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に学習した学習指導要領の共通事項については、必ず復習し基礎基本の定着を図る。 鑑賞曲だけでなく、歌唱教材や器楽教材を聴く際にも、曲想やその変化に気を付けて聴くようにし、一人一人の意図や思いをもたせられるようにする。 上記の活動を見通しをもって進めていくことで、演奏への思いをもって技能が高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習した学習指導要領の共通事項を振り返りながら学習を進め、基礎基本を定着していく。 楽曲の曲想やその変化に気を付けて聴くようにし、なぜそのように感じるかを音楽の要素と結び付けられるようにする。 上記の活動を支えとし、一人一人の意図や思いを大切に伸ばしていく。
図工科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本的な知識・技能の習得 造形的な見方・考え方を元に、表したいことを発想したり表し方を考えたりする思考力・判断力を培う。 自分の考えを表現するための幅広い表現力を培う。 多様な発想や表現を認め、よさや価値を感じられる姿勢を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な素材や用具を使った様々な造形活動を通して、適切な技能が身に付けられるようにする。 自分の思いをもって表現する経験を重ね、つくり出す喜びや楽しさを味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が興味をもてるよう工夫した幅広い題材を通して、 様々な素材や用具に触れ、体験しながら造形的な知識・技能を身に付けられるようにする。 多様な発想や表現を認め、児童が自分の思いや想像を膨らませてつくり出す楽しさを味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が興味をもてるよう工夫した幅広い題材を通して、 様々な素材や用具に触れ、自分で試したり確かめたりしながら、造形的な知識・技能を身に付けられるようにする。 互いに活動や作品を見合ったり紹介し合ったりして、よさや違いに気付き認め合えるようにする。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本的な知識・技術の習得 グループやペアでの協働学習による学び合い 家庭での実践の紹介による意欲づけ 			<ul style="list-style-type: none"> ペアで教え合ったりチェックし合ったりして、知識・技能の定着をはかっていく。 グループやペアで話し合ったり、調べたことを発表しあったりして、考えを深められるようにする。 家庭学習を紹介し合って、学んだことを家庭で実践してみようという意欲を高める。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> 系統性を踏まえた、段階的指導をおこない3観点をバランスよく育む 教師の言葉かけや場の工夫によって、児童の技能向上を行う。特に、評価がCの児童をB評価にするための手立てを行う。 投力向上に向け、遊びや用具を整備する。 協働的探究学習で、学びあいの中からコツを共有させるなど、思考力・判断力・表現力の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びを通して、運動の日常化を図る。特に投力については随時、活動を行う。 児童にとって魅力的な教材を提供できるようにして、場の工夫を吟味し、関心と技能向上を高めていく。 ペアやグループなど、互いに見あったり声をかけあったりする機会を設ける。見る視点、声掛けの視点等を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の特性を味わいながら、体力と自然と向上していく学習を行う。 仲間とともに自己の課題解決に取り組むことができるような学習環境を整備する。 ICT機器を活かしながら、目的意識をもたせ、学習課題を見いだしていけるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやトリオを作り、互いに励ましあったり、助言したりして技能の向上を図っていく。 前学年の学習(めあて)を行うなど、児童の発達段階、個人の程度に応じた指導、手立てを考えていく。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> 担任とALT、MEPSの指導員と連携を図りながら、国際社会で通用するコミュニケーション能力の基礎を身に付けさせる。 教科書や副読本のICT教材を活用しながら、正しい発音や英語の表記に触れさせる。 			<ul style="list-style-type: none"> 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えなどを伝えたり、伝え合えるようにしていく。 語句や表現の意味や働きを理解できるように、ミニテスト等で習熟を図っていく。 クラスルームイングリッシュを充実させ、日常的に会話できる場を増やす。

⑬-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見付け、課題の解決に向けて主体的・創造的に取り組む態度や自己の生き方を考える力を育てる。情報機器の活用についても指導する。 自分にとって必要な情報を取捨選択しながら、自分なりの表現方法でまとめさせる。 		<p>地域に根ざした課題を自ら見つけるためのフィールドワークなどが熱中症予防の観点から難しいこともあったため、ICTを活用した活動に切り替えた部分もあった。後期は課題設定を主体的にできるようなカリキュラムを組み直していきたい。</p> <p>表現方法としてICTを積極的に活用している。今後は子供達自信がツールを選択することができるように指導していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> クロームブックを活用しながら、自ら課題を見付け、課題の解決に向けて主体的に取り組めるようにしていく。 資料の活用の仕方の指導、友達と相互評価を行いながら自分なりの表現方法でまとめられるようにしていく。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業地区公開講座を通して、保護者・地域との連携と児童の健全育成に取り組む。 展開後段の自己の振り返りをしていく。ワークシート等を活用し心情の変化を読み取り、評価へとつなげていく。 発達段階に応じた指導を取り入れ、動作化や役割演技など体験的学習を取り入れ、児童の多様な意見を引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業地区公開講座を通して、保護者・地域との連携と児童の健全育成に取り組む。 展開前段の資料の読み取りでは、自分ごととして教材を捉え道徳的心情を養えるよう促す。 発達段階に応じた指導を取り入れ、動作化や役割演技など体験的学習を取り入れ、児童の多様な意見を引き出す。 ワークシート等を活用し心情の変化を読み取り、評価へとつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の道徳地区公開講座では、2年振りに地域の方や保護者の方に参観していただくことができ、子どもたちが学習に励む様子を見ていただくことができ、良い機会となった。 授業では、ICT機器も適切に活用しながら、子供の意見を引き出す指導をしていく。 全教育活動を通して、道徳性を養う機会を逃さず、一貫性のある指導をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業地区公開講座を通して、保護者・地域との連携と児童の健全育成に取り組む。 展開後段の自己の振り返りをしていく。ワークシート等を活用し心情の変化を読み取り、評価へとつなげていく。 展開前段の資料の読み取りから、展開後段の自分自身の振り返りを時間を大切にし、道徳的実践力を養う。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通してたてわり班活動を行い、1年生から6年生までの縦のつながりを深めるとともに、児童会活動・学級活動を活性化させ、よりよい集団・学校生活を送ろうとする心を育てる。 なかよしタイムを年間8回、なかよし給食を2学期と3学期に行いつながりを深める。 町田っ子カリキュラムを活用して、規範意識を高め、また、食事の大切さやルール・マナーなどを学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> なかよし班活動後に、振り返り活動を行い、自身の成長や友達との関りについて考えるように促す。 係活動、集会活動、学級会等、活動の意味や場を設け、各活動の素地を育むようにする。 学校行事を通して、自身の成長をより感じられるように目標を明確にして、活動していく。 	<p>感染症予防の観点から縦割り班活動が計画通りに進まないことがあったが、行われた活動では、学年を超えて楽しく活動に取り組むことができた。また、あいさつ運動などを通して、学年を超えた繋がりが見られ、子供達の満足度も高いので、今後も引き続き取り組んでいきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通してたてわり班活動を行い、1年生から6年生までの縦のつながりを深めるとともに、児童会活動・学級活動を活性化させ、よりよい集団・学校生活を送ろうとする心を育てる。 異学年交流のなかよしタイムを年間8回行い、つながりを深める。 委員会活動や学校行事などの準備などに積極的に関わることにより、主体的に行動する力を育てる。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 町田市小学校英語教育カリキュラムの指導を行い、ALTや友達とのコミュニケーションを英語で楽しめるよう、ゲームやチャットをより一層工夫し、コミュニケーションの基礎を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語での簡単で短い質問や、ジェスチャーなどを工夫して取り入れ、ALTと担任教師、児童のコミュニケーションの充実を図る。 チャンツやゲームを通して、英語を身近に感じられるよう、慣れ親しませる。 	<p>ALTと連携を取りながら計画的に学習を進めることができた。今後は、担任がMTとして外国語学習を進めていけるようなツールの活用方法(ICTを活用したものも含めて)やイラストカードなどの教材をALTや連携担当と相談しながら開発したり、環境を整えていきたい。</p>	